

2024年度 第1四半期 決算説明資料



2024年8月8日

株式会社三井E&S



※ 前年同期に比べて増収増益となり、順調なスタートを切る

<p>2024年度 第1四半期 決算概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受注高 859 億円 (前年同期比 ↓) ◆ 売上高 701 億円 (前年同期比 ↑) ◆ 営業利益 43 億円 (前年同期比 ↑)
<p>2024年度 見通し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 受注高 3,300 億円 (前回発表見通し比 →) ◆ 売上高 3,000 億円 (前回発表見通し比 →) ◆ 営業利益 170 億円 (前回発表見通し比 →)
<p>トピックス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 期末配当予想の修正 (増配) ◆ 関連会社株式の売却について ◆ 「三井E&S Rolling Vision 2024」を新たに策定

※ 関係会社株式売却益の計上により、四半期純利益が大幅に増益

(単位：億円)

	23年度1Q	24年度1Q	増減
受注高	928	859	△69
売上高	616	701	+85
営業利益	17	43	+26
営業利益率	2.8%	6.1%	-
経常利益	6	87	+81
経常利益率	0.9%	12.4%	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	9	288	+279

<期中平均為替レート>

	23年度1Q	24年度1Q
USドル	138.54円	156.70円

2024年度 第1四半期 セグメント別決算概要

※ 物流システム部門の受注高は前年同期を下回っているが、当社初のバングラデッシュ向け大型案件を受注するなど受注環境は良好であり、着実な滑り出し

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	23年度1Q	24年度1Q	増減	23年度1Q	24年度1Q	増減	23年度1Q	24年度1Q	増減
成長事業推進	124	93	△31	82	75	△7	4	10	+7
船用推進システム	460	564	+104	295	328	+33	18	24	+6
物流システム	204	108	△96	74	132	+57	△5	8	+12
周辺サービス	139	92	△47	148	163	+15	5	3	△3
その他	1	0	0	17	3	△14	△5	△2	+3
合計	928	859	△69	616	701	+85	17	43	+26

※ 海外土木建築工事の収束と保有資産の見直しにより、フリーキャッシュ・フローが大幅に改善

(単位：億円)

	23年度1Q	24年度1Q	増減	
営業CF	△364	△24	+340	下請代金支払遅延等防止法の運用改正に伴う手形サイト短縮の影響が24年度1Qに集中した事により、営業CFは若干のマイナスとなったが、当該影響を除くと黒字を維持。
投資CF	5	696	+690	主にモデック株式の売却による増加。
フリーCF	△358	672	+1,030	
財務CF	292	△570	△862	主に短期借入金の返済による減少。

※ 新たに、フリーキャッシュ・フローおよび有利子負債の見通しを提示

(単位：億円)

	24年度 見通し
受注高	3,300
売上高	3,000
営業利益	170
経常利益	180
親会社株主に帰属する 当期純利益	350
フリーCF	760
うち営業CF	170
有利子負債	1,000

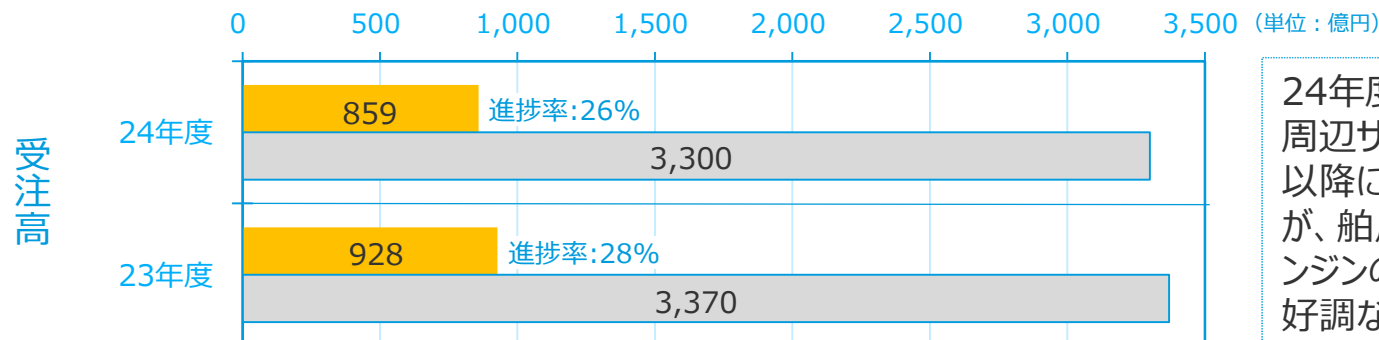
(単位：億円)

セグメント別 24年度 見通し	受注高	売上高	営業利益
成長事業推進	400	400	50
船用推進システム	1,400	1,300	60
物流システム	700	600	30
周辺サービス	800	700	30
その他	0	0	0
合計	3,300	3,000	170

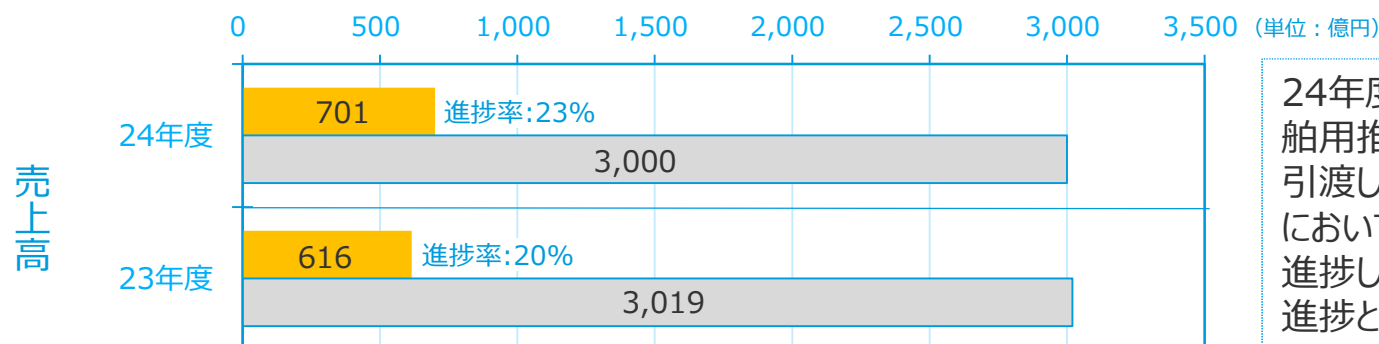
※ 前提為替レート US\$ = 145円

※ 為替ヘッジの進捗により、今年度におけるUSドル1円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

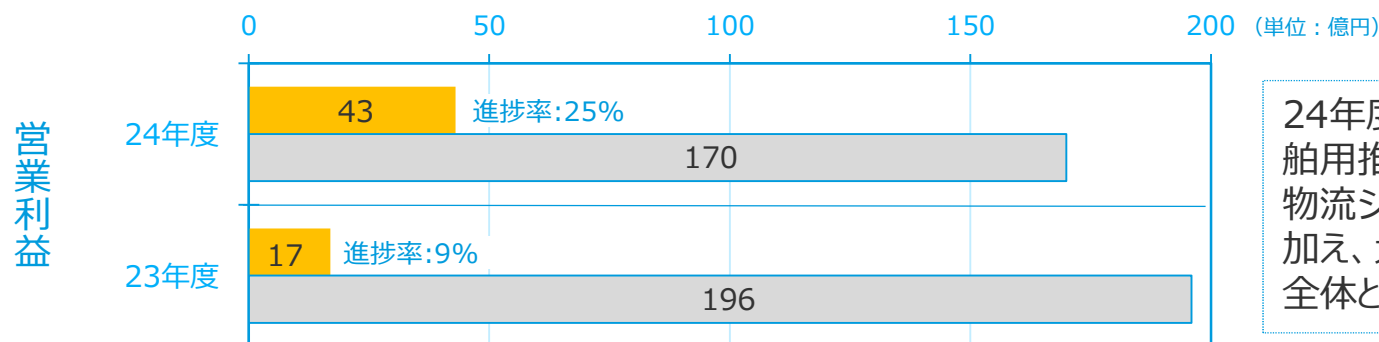
※ 通期業績見通しに向け、計画の範囲内で進捗



24年度 1Q:
 周辺サービス部門において、案件が第2四半期以降に見込まれている事からスロースタートとなったが、船用推進システム部門において、大型船用エンジンの案件が増加した事などにより、全体として好調な滑り出しとなった。



24年度 1Q:
 船用推進システム部門において、船用エンジンの引渡し为好調に推移した事や、物流システム部門において、23年度に受注した大型工事が順調に進捗した事などにより、全体的に概ね計画通りの進捗となった。



24年度 1Q:
 船用推進システム部門が増収による増益となり、物流システム部門においては、増収による増益に加え、大型工事の採算が改善した事などにより、全体として順調な進捗となった。

■ 1Q ■ 通期

※ 2025年3月期 期末配当予想

普通株式	2024年3月期	2025年3月期	
	前期実績	前回予想	今回修正予想
年間配当金	5円	12円	18円

※ 経営の重要課題

- 事業発展のための設備投資、研究開発投資及び財務基盤を強化するための株主資本の充実を総合的に判断しながら、株主の皆様への利益還元を充実させていく。

※ 増配の背景

- 事業戦略及び財務戦略を着実に遂行できている状況を踏まえ、ステークホルダーの皆様への還元について改めて検討。

※ 関連会社株式の売却

	売却時期	出資比率		調達資金	売却益
		売却前	売却後		
三井海洋開発	24年5月～6月	40.53%	3.66%	約700億円	約250億円
SOFEC *1)	24年5月	20.00%	0.00%		

*1) FPSOなど各種係留設備の設計、建造、据付けに係るサービスを提供する会社

※ 主な資金使途

- 短期借入金553億円を返済
- A種優先株式（約92億円*2）の全部を7月10日に取得し、同日に消却
- 米国を含めた港湾物流事業の世界市場展開に必要な投資
- 船用エンジンに関連する重要部品の技術開発や製造に必要な投資
- 人材育成等の制度改革を軸とした人的資本への投資

*2) 経過配当金相当額を含む

※ モデック株式の一部売却に伴い、同社の持分法による投資損益の認識は、
24年度第1四半期まで

(単位：億円)

科目	23年度1Q	24年度1Q	増減	
売上高	616	701	+85	
売上総利益	87	113	+26	
販売費及び一般管理費	70	70	0	
営業利益	17	43	+26	
営業外収益	16	57	+40	主にモデックの増益に伴う持分法による投資利益の増加
営業外費用	28	13	△15	主に有利子負債の減少に伴う金融費用の減少
経常利益	6	87	+81	
特別利益	13	255	+242	主にモデック株式の売却に伴う関係会社株式売却益の増加
特別損失	7	13	+6	
税金等調整前四半期純利益	12	328	+317	
法人税等	3	40	+37	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	0	0	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9	288	+279	

※ 投資有価証券の売却と有利子負債の圧縮により資産が減少、
四半期純利益の計上により自己資本が増加 → 自己資本比率向上

(単位：億円)

	23年度	24年度1Q	増減	
資産合計	4,671	4,316	△355	
(現金及び預金)	356	460	+105	
(受取手形、売掛金及び契約資産)	963	878	△85	
(有形・無形固定資産)	1,316	1,309	△7	
(投資有価証券)	761	260	△501	主にモデック株式の売却による減少
負債合計	3,206	2,627	△580	
(支払手形及び買掛金)	647	554	△93	
(受注工事損失引当金)	43	33	△11	
(有利子負債)	1,620	1,065	△555	主に短期借入金の返済による減少
純資産合計	1,465	1,690	+225	
(自己資本)	1,420	1,645	+225	主に利益剰余金の積み上げによる増加
(自己資本比率)	30.4%	38.1%		
運転資本(*)	673	692	+19	
ネットD/Eレシオ	0.9倍	0.4倍		

(*1) 運転資本 = 売上債権 (除く前受金) + 棚卸資産 - 仕入債務

※ 24年度第1四半期は、船用エンジンの引渡しが好調に推移

	23年度 1Q		24年度 1Q		24年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	50	127	42	148	—	—
売上高	35	67	38	80	—	—
受注残高	124	242	124	300	—	—
生産実績	41	78	32	65	146	304



MITSUI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性がございます。